

障害当事者と家族が短期入所利用に抱える困難と課題

－利用者意向調査の自由記述回答分析－

○ 日本女子体育大学 雨宮由紀枝 (003240)

キーワード3つ：障害児者短期入所・自由記述・計量テキスト分析

1. 研究目的

本調査は、筆者が参加する機会を得た平成24年度川崎市障害者地域自立支援協議会くらし（短期入所）部会「障害のある方の短期入所利用に係る調査・検討報告書」によるものであり、その結果はすでに報告書として公開されている¹⁾。

本論は、障害当事者や家族が短期入所利用について日頃抱えている思いを、自由記述回答分析から追加検討し、安心して身近な地域で生活を続けるために、その使いづらさの改善に向けた手掛かりを得ることを目的とした。

2. 研究の視点および方法

- 1) 調査対象：川崎市内の障害福祉サービス事業所75か所、地域活動支援センター63か所、特別支援学校6校、事業所不明等、回収数2,010枚（回収率47.1%）。手帳取得者は、身体障害者手帳408名、療育手帳1,281名、精神保健福祉手帳275名。医療ケア有57名。
- 2) 調査方法：対象となる機関に調査期間前に自記式質問紙を送付し、各機関から利用者またはその家族へ配布を依頼した。回答した質問紙は送付元の機関へ提出のうえ、未開封のまま返送する方法を採用した。
- 3) 調査期間：平成25年1月10日～1月16日
- 4) 分析方法：自由記述欄「短期入所制度に関連して将来的にどのようなサービスがあったらよいと思いますか?」「短期入所制度について望むことがあれば、具体的にお書きください」「その他、ご意見があれば自由にお書きください」の3項目どれかに回答があった人を対象とし、樋口²⁾を参考に、KH Coderを用いた計量テキスト分析を行った。具体的には、①全体像を把握するための頻度分析、②頻度分析の結果表に基づく文脈に沿った編集作業（例えば、同義語（「短期入所」＝「ショートステイ」）、分断しない言葉（「医療 | ケア」「日中 | ショート」）、③出現頻度の高い抽出語を中心とした自由記述回答の内容分析、④さらに「障害種別」を外部変数とし各種別で特徴的に出現しやすい言葉の抽出を行った上で、考察を行った。

3. 倫理的配慮

調査の依頼文書に「回答は全て統計的に処理し個人が特定されないこと」、「回答は目的以外で使用しないこと」を明記し、調査票の返送をもって同意が得られたものとみなした。

4. 研究結果

1) 回答者の属性

自由記述欄回答者 637 人の障害種別は、身体障害 22 名 (3.5%)、知的障害 319 名 (50.1%)、精神障害 83 名 (13.0%)、重複障害 120 名 (18.8%)、医療ケア 30 名 (4.7%)、年齢は、18 歳未満 85 名 (13.3%)、18 歳～20 代 208 名 (32.7%)、30 代 133 名 (20.9%)、40 代 85 名 (13.3%)、50 代以上 51 名 (8.0%) であり、全体とほぼ同割合であった。

2) 出現頻度の高い抽出語からみるデータの全体像

総抽出語数 20,818 語、異なり語数 2,767 語、度数平均 7.54 であった。

最も多く使用されていた言葉は、1 利用 (789 回) であり、2 ショートステイ、3 施設、4 親、5 本人、6 希望、7 職員、8 必要、9 良い、10 送迎、11 入所、12 出来る、13 お願い、14 今、15 通所、16 現在、17 障害、18 緊急、19 時間、20 場所と続いた。

表1 障害種別にみる特徴的な使用語

身体		知的		精神		重複		医療	
願う	0.143	利用	0.392	知る	0.098	施設	0.182	医療ケア	0.300
待つ	0.091	ショートステイ	0.307	良い	0.081	利用	0.165	看護	0.278
川崎	0.086	施設	0.272	特に	0.080	生活	0.136	医療	0.242
ショートステイ	0.075	親	0.181	アンケート	0.076	介護	0.124	病院	0.213
場合	0.073	本人	0.166	特	0.068	希望	0.122	川崎	0.167
重ねる	0.071	送迎	0.157	情報	0.067	親	0.117	S施設	0.156
希望	0.070	希望	0.139	詳しい	0.057	安心	0.117	望む	0.150
楽しみ	0.067	通所	0.138	自体	0.057	本人	0.113	在宅	0.143
入所	0.066	緊急	0.137	パンフレット	0.056	見る	0.107	重度	0.136
年	0.064	今	0.132	書く	0.056	出来る	0.107	少ない	0.125

* 各抽出語の右側に示された数値は、KH Corderによって算出された Jaccard 類似係数を示している

5. 考察

表1の使用語に基いて原文をたどると、「希望しても2カ月くらい待たないと利用できないとよく聞く。これから年を重ね、老老介護にますますなります。(身体)」、「平日利用した時に通所とショートステイ先の送迎があると良い。緊急対応のところが増えると安心です。(知的)」、「ショートステイというものがあること自体知らなかった。詳しく書かれてあるパンフレットのようなものがあるとよい。(精神)」、「重度重複者こそ介護や医療が必要なのにもかかわらず、安心して生活してゆける施設がない。(重複)」、「重度になると看護師がいても断られる。子どもが重度で医療ケアが必要で一番休息が必要な家庭が預けることができない現実です。今のままではいつまで在宅で頑張れるのか不安になる。(医療ケア)」など、障害の種別ごとに特徴的な困難と課題が見えてくる。

また、施設の絶対数の不足、緊急事態のニーズ、安心できる施設環境、送迎サービスの必要性、親からの自立、親亡き後の不安については、どの障害も繰り返しテーマとして挙がってきていた。自由記述欄で多くの方が言及している内容は、本アンケート調査の量的結果とともに、今後の短期入所サービスの改善に重要な示唆を与えてくれるものとする。

1) 川崎市ホームページ <http://www.city.kawasaki.jp/350/cmsfiles/contents/0000046/46788/siryoy4-1.pdf>

2) 樋口耕一 (2014)『社会調査のための計量テキスト分析－内容分析の継承と発展を目指して－』ナカニシ出版。